

令和4年度第2回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和4年7月14日（木） 15時～17時40分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して21名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

(会長)

会議に先立ち、本日の目的を共有したい。進行している総合計画の担当課評価に対する見解について皆さんと議論していく。KGI、KPIの目標値が設定されているが、指標については第4回会議での議論となる。本日お気付きの点があれば、ぜひメモを取っていただいて御提出いただきたい。チェック機能が最も重要であるということは前回もお話させていただいた。したがって、皆さんそれぞれの立場から考えや御意見をいただきたい。

また、組織やチームがプロジェクトを進めていく上で、心理的安全性を確保することが重要であると言われている。気兼ねなく安心して意見を述べることができる環境が心理的安全性を確保し、発言の機会を均等にすることが具体的方法の一つである。

皆様には積極的かつ均等に発言していただきたいので、御協力よろしくお願いたい。資料のとおり、議論すべき項目が多岐に渡ることから、休憩の時間を活用し、事務局や委員同士でお話する時間を設けたい。

3 議題

(1) 第2次石巻市総合計画における令和3年度達成状況について

評価・検証方法について（資料1：政策企画課から説明）

第1章（資料2：各担当課から説明）

【第1節】

(副会長)

令和3年度の目標値は40%、実績値が70%となっているが、母数と件数を教えてほしい。

(地域協働課)

目標値については、石巻市地域福祉計画に基づくものである。アンケートを実施し、地域活動への参画意識を見る指標の結果が33.2%であったため、目標値を40%とした。実績値の70%は市民意識調査の結果であり、コロナ禍前を条件に

調査を実施していることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の数値となっているため、高い数値となっている。

(会長)

コロナ禍前を想定した参加意向ということで良いか。

(地域協働課)

コロナ禍前に参加したかどうかで答えいただく問いにしている。

(委員)

実際のデータをウェブ上で確認することは可能か。

(地域協働課)

ホームページに公表しているので、確認可能である。

(委員)

話が広くなってしまいかもしれないが、コロナ禍前の数値を出したということだけでなく、各項目でコロナ禍を原因とするものがかなり多い。仮定の話だが、ウィズコロナという言葉が使われているように、コロナと共存する社会が今後当分続くのではないかと予想されている中で、その分の数値変更や目標の見直しは何か考えているのか。一つの課だけではなくて、市全体の問題だと思う。

(地域協働課)

この指標に限るが、現時点で目標値の変更は考えていない。

(会長)

今の指摘は今後検討していかなければならないと思う。本日はすでに目標値が定まっていて変更することができないので、目標に対してどうであったか判断いただきたい。ただし、今の指摘はぜひメモに取っていただいて、第4回会議時にウィズコロナ禍で目標値がどうあるべきか議論したい。

(地域協働課)

ただいま第1節の説明をさせていただいたが、ページの右側に細節として3つの指標を掲載しているため、こちらも確認いただきたい。

(委員)

説明いただいた大きい指標と、細節の関係がよく分からない。細節があつての節の評価になるのか。それとも別々なのか。

(地域協働課)

細節があつて節の数値をあげるように頑張っていく、というものである。

(委員)

細節にある”d”の評価をまとめると”A”になるということか。

(地域協働課)

第1節については、単体で40%の目標に対して70%の実績で”A”となり、細節についてそれぞれ”d”の評価となっている。節と細節は本来深く関係しているものだが、第1節についてはそれぞれの評価となっている。

(委員)

それでは我々委員はどちらを見て評価すれば良いのか。

(事務局)

基本的には節に設定しているKGIを達成するために活動する指標となるのがKPIであることから、右側に個別の事業を掲載している。今回の評価については、KGIとKPIを含めて一体的に評価をいただきたい。

(委員)

それは個人の主観や主体性に任せるということか。

(事務局)

そのようになる。

【第2節】

(委員)

東京圏というと、東京、千葉、埼玉、神奈川を指すのか。

(SDGs移住定住推進課長)

その通りである。

(委員)

移住の中に企業の転勤者は入っているか。

(SDGs移住定住推進課)

実績の462人については、実質転入されてきた方になるため、移住されてきた方のほかに、転勤されてきた方も含まれている。

(委員)

実際に入ってきた方、出て行った方は何人なのか。

(SDGs移住定住推進課)

東京圏については、転出された方が699人に対し、転入された方が462人となっており、差し引きで-237人となっている。

(委員)

今の質問に関連して、東京圏に限ってという説明だったが、資料3のNo.4によると、石巻市定住促進住宅取得等補助金交付実績が県内8件、県外5件となっており、東京圏は東京都1件のみとなっている。この乖離はどのようなものなのか。

(SDGs移住定住推進課)

資料3にある移住対策事業の説明になるが、石巻市定住促進住宅取得等補助金というものを実施している。新たに石巻市に移住された方が新たに住宅を取得する場合や改修する場合に補助金を交付する制度となっており、東京圏については1件のみの実績であった。補助金の対象となる方は少なかったが、その他にアパートや親戚宅等にお住まいになる方、Uターンしてきた方等、様々である。

【第3節】

(委員)

細節3「消防機能・交通安全を推進する」で、確かに資機材を充実させていくというのは理解できるが、できれば団員の確保を入れてほしい。資機材が配備されても、団員が不足して動かす人員がないというのが実態である。消防団の末端は、1部、2部、3部となっているが、1部と2部を合同させて1台のポンプ車を動かすという形になっている。資機材の整備は必要で、ものすごく大切だが、団員の確保というのにも同時に進められないものか。

(危機対策課)

団員の確保については御指摘のとおりであり、団員数は減少傾向にあり、課題の1つとなっている。新入団員の確保に向けて自動車免許の取得費用の助成、組織体制や業務内容の見直し等、組織再編を踏まえながら進める必要があると考えている。

(会長)

今の指摘についても、第4回会議で議論したい。

(副会長)

令和3年度の訓練の参加人数を教えてください。

(危機対策課)

参加人数は24,700人となっている。

【第4節】

(地域振興課)

資料2の8ページ、細節1について、資料の修正をお願いします。

- ・令和3年度実績値 (誤) 27.9% → (正) 28.0%

(委員)

行政委員をやっているが、河北地区は男性のみとなっている。総会を開催した際も参加者は男性しかいなかった。以前も何かの機会に発言したが、田舎は特にそのような意識が強い。行政委員、あるいは自治会の中に会長と副会長がいると思うので、手当て等を出して、どちらかを女性にするとか、将来的に制度としてできないか。男女共同参画になるのではないかと以前から感じている。

(地域振興課)

制度や条例で決まっていることもあり、男女共同参画に取り組む担当課としてはそういったところも考えていかなければならないと考えている。庁内の各課において、現行の制度で男女共同参画が難しいのであれば、男女が均等に参画できるように内容を変えていくことも検討していきたい。

【第5節】

(委員)

交通情報のオープンデータ化というのを具体的にどのような形で行うのか教えてほしい。

(地域振興課)

スマートフォンやインターネットで目的地まで検索した際にJR等の情報は出てくるが、バス利用については検索することができない状況となっている。各停留所等の位置を地図上に落とし込み、検索すると情報が出てくるようにデータ化したいと考えている。

(委員)

河北地区では住民バスが運行されている。20人で構成するサロンをやっているが、常時来ている12～13人の方にバスを利用しているか聞いたところ、ほとんど利用していなかった。理由としては、目的地にすぐ行けないためである。

一昨年カーシェアリングの話が出ており、先日最後まで煮詰めた。震災後に、トイレ等の修繕を行った上で老人憩いの家の払い下げを受け、サロンをやっているが、カーシェアリングを導入して色々なところに行きたいという話が出たため、月1回のところ週3回くらいサロンを開けて、経費はかかるだろうが老人クラブと協議してやりましょう、となった。カーシェアリング協会の方に来ていただいて話を詰めたが、最終的にリース料として月17,000円かかると言われた。年間204,000円もかかり、自治会で払うのは難しい。動かす段階のところまで進んだが、リース料のことで頓挫してしまった。立派に直していただいた老人憩いの家を月1回しか開けないのはもったいない。カーシェアリングをやって、週3回くらい動かせば、病院に行ったり、買い物に行ったりできるので、最後まで話が進んだが、自治会ではリース料を払えないので、ぜひ市で援助してほしい。

(地域振興課)

市の公共交通だけではカバーしきれないところもあり、カーシェアリングについては大変有効な手段となっている。カーシェアリングは石巻市を中心に始まり、11団体が実施している。補助については、すぐにお答えできないが、今後協議させていただきたい。

(委員)

細節1の公共交通利用促進事業実施回数について、公共交通に対する市民の関心を高めるために計3回実施したとあるが、参加人数は何人くらいか。

(地域振興課)

概ね各20人程度で計60人位である。

(委員)

「令和4年度においては、河北・雄勝・北上地区を路線再編の重点地区に設定し、」とあるが、牡鹿地区でも要望している。高齢化に伴い、90歳近くの人が80歳の人

を病院まで送迎し、私も頼まれれば送迎しており、現在は地域の好意で成り立っている。住民バスが通っていても、バスに一人で乗り降りできない高齢者も多く、地域の重点課題となっている。ぜひ牡鹿地区についてもよろしくお願ひしたい。

(地域振興課)

牡鹿地区については、市が行っている市民バスを運行している。バス停までも行けない高齢者の方が多いことは把握しており、今後の検討課題としている。評価シートに記載した河北・雄勝・北上の3地区以外で、本庁を含めた4地区は令和5年度に重点的に実施していきたいと考えている。

【第6節】

(委員)

目標値50,000件に対して実績値95,000件以上であるのに、なぜ翌年の目標が下がってしまうのか。少なくとも実績分は確保できるのではないか。あるいは実績から年々増やしていくため工夫が必要で、目標はそのためにあるのではないか。

(震災伝承推進室)

当初50,000件で設定していたが、実績を加味しながら検討していきたい。

(委員)

目標50,000件に対し、実績が95,000件なのであれば、目標は少なくとも増えなければおかしい。今でなくても構わないので、後で説明してほしい。

(会長)

目標値の見直しが必要になると思うので、第4回会議で議論したい。

第2章（資料2：各担当課から説明）

【第1節】

(委員)

目標値と実績値はどのような計算方法で出しているのか教えてほしい。例えば、石巻市で雑紙を回収していることを知っている人が私の周りですごく少ないと感じており、第2節のKG Iであるごみの総量が、排出されているごみの量で計算されているのであれば、ここで示されている数値は信じがたい。

(環境課)

二酸化炭素排出量は、環境省が発表している自治体排出量カルテというものを基にして作成されているデータである。

(委員)

目標値に対して実績値はどのように算出しているのか。

(環境課)

石巻市内で実際に排出されたデータが環境省から発表されており、産業部門、家庭部門、運輸部門等の色々な部門から出される二酸化炭素の排出量を合計して出され

たものが公表されている。

(会長)

環境省が自治体ごとに計算をして公表されているということか。

(環境課)

その通りである。

(委員)

実績値の算出方法はホームページで確認可能か。具体的にどのように算出したか見えるか。

(環境課)

環境省のホームページで自治体排出量カルテを見ることができる。

(委員)

市の数字はどこで見られるのか。環境省のホームページで石巻市の数字も見られるのか。

(環境課)

単年の数字については、市のホームページでも見られるようになっている。計算式までは載せていない。

(委員)

どうやって算出したかは分からないということか。どうやって計算したか分からないと評価しづらい。

(環境課)

環境省のデータをそのまま拝借すれば分かりやすいが、今後は市のホームページでの部門別の排出量を確認できるようにしたい。

(委員)

目標値の1,254千tに対して実績値が1,188千tで、なぜ106%になるのか。同じように15ページも目標値の52,517tに対して実績値が53,400tで98%、16ページも目標値の1,029gに対して実績値が1,051gで98%になるのはなぜか。実績が上回っているのに、なぜこのような計算になったのか。

(環境課)

令和3年度の目標値である1,254千tから二酸化炭素の排出量を毎年段々と減らしていこうとする目標値としている。それに対して、令和3年度は石巻市から排出された二酸化炭素の排出量が、減らしていこうとする数値よりも少なかったことから、評価は100%以上になっている。

(事務局)

15ページと16ページについては、次の担当課から御説明するが、こちらも考え方は同じで、減らしていくことが目標になっており、その目標を超えてしまっているため達成率が100%を下回っている。

【第2節】

(副会長)

家庭系ごみと事業系ごみのそれぞれの総量を教えてほしい。

(廃棄物対策課)

令和3年度は家庭ごみが39,128t、事業系ごみが14,272tであり、合計で53,400tとなっている。

(委員)

細節2のKPIについて、回収率とリサイクル率は違うと思うが、この数値は回収率のみの数値なのか。

(廃棄物対策課)

全体のごみの量に対して資源化した数量の割合で出している。

(委員)

そうするとリサイクル率ではなくて回収率ということか。例えば、ペットボトルだと回収率はすごく高いが、リサイクル率はすごく低い。これに関しては回収率ということであれば良いか。

(廃棄物対策課)

この数値は全体のごみの量に対して資源化した量を単純に割ったものである。個々のものについては総量が分からない部分もあるので、回収率というよりも数量で出している。

(会長)

最初にごみの内訳について質問があったが、家庭系ごみの割合が高いということもあって、細節の方で家庭系ごみをあげているのだと思う。なぜこの指標なのか説明があると分かりやすい。

【第3節】

(委員)

1点目は資料3のNo.22の右下に空き家バンク登録件数の目標値が25件となっているが、資料2の細節4では20件となっている。どちらが正しいのか。

(住宅課)

資料3は誤りであり、正しくは20件である。

(委員)

もう1点は、細節5「道路整備を推進する」で、我々の要望として、市道について特にお願いしているところがあるが、通学路を優先した形での道路整備をお願いしたい。色々な機会を利用して話をさせてもらっている。平成28年に河南の37の行政委員と市長を含めた市の幹部と、交通安全上、ものすごく危険であるという話をした。幅員が狭い道を通学時間帯に小学生が通る。あまり人が通らなかった道であるが、震災後に若い世帯が住むようになり子どもが増えた。するとこの道を小学生が使う

ことになる。以前はそういうことはなかったが、子どもがガードレールにへばりつくような形で自動車の通行を避けている。道路を整備する中で目標が2%ずつ上がっており、重要度の高い箇所から整備するとあるが、この重要度、やらなければならない場所として押さえている件数はどれくらいあるのか。

(会長)

本日は目標値に対して実績値がどうだったかという議論である。指標が量でしか計れないが、質的に見て議論しなければならない部分もある。私も気になっているが、量で計っているものが多く、質の部分が見落とされている部分があると思う。その質に対して議論をしていきたいという気持ちはあるが、今回は目標値に対して実績値がどうだったか議論するものであるので、今の御意見は記録に残し、第4回会議で議論を重ねていきたい。

(委員)

空き家戸数がかかなり増えてきており、石巻市だけでなく全国的に増えていると思う。石巻市で空き家は何件あるのか。

(SDGs 移住定住推進課)

平成30年度に調査をした結果、2,400件弱であった。

第3章（資料2：各担当課から説明）

(会長)

色々な御要望等あると思うが、必ずメモしてほしい。今日は要望を出す場ではないので抑えていただいて、メモに書いて提出いただきたい。あくまで目標値に対して実績値がどうであったかという点について御意見をいただきたい。

【第1節】

(SDGs 移住定住推進課)

資料3、16ページのNo.28「子育て世代包括支援センター事業」について、資料の修正をお願いします。

・「令和3年度の取組・成果」

令和3年度委託件数 (誤) 760件 → (正) 2,023件

合計件数 (誤) 1,001件 → (正) 2,264件

【第2節】

(副会長)

実績値の70.8%はアンケートや市民意識調査の結果になるか。

(介護福祉課)

令和3年度の市民意識調査の結果である。

【第3節】 質疑なし

【第4節】 質疑なし

【第5節】 質疑なし

第4章（資料2：各担当課から説明）

【第1節】

（委員）

KG I に設定されている総生産額が減少していくのは県の数値だと説明があったが、減少する要因というのは、人口減少と密接に関係するのか。

（商工課）

その通りである。令和2年度に宮城県が公表した市町村民経済計算によると、当時は5,700億円程であったが、平成26年度に七十七銀行が公表している宮城県と東北各県の経済成長率の将来推計調査に、経済センサスと国勢調査による人口減少、産業別の人口フレーム等を加味して令和7年度の目標値を定めている。

（委員）

統計資料から取れるのは分かるけれども、それに逆らっていくのが今回の趣旨ではないのか。統計資料に基づいたものをただ羅列したのでは、努力の目標がなくて、PDCAサイクルの論理から言って、チェックの機能は働かないという認識である。ここで議論する必要はないけれども、そういった意味で作った計画なのであれば、何の進展もないということをあえてここで苦言を呈する。

（商工課）

御指摘のとおりであり、増やすことは考えているが、この数値がこれ以上下がることのないように努力していきたい。

（会長）

これも目標値の設定について議論すべきこと、検討すべきことだと思う。

【第2節】 質疑なし

【第3節】

（委員）

細節7のニホンジカの駆除頭数の目標値はどのような根拠で設定しているのか。

（ニホンジカ対策室）

捕獲頭数の設定については、県が策定している計画との整合を図っている。森林面積1㎡あたり10頭程度の目標値としており、石巻市の森林面積に合わせた数値を設定している。

(委員)

ニホンジカの増加数は反映されているのか。年間どれくらい増えているか。

(ニホンジカ対策室)

県で調査をしているが、前年度は推定で10,000程度の生息数となっている。

(委員)

例えば10年間でいうと、どれくらい増えているか。目標値がずっと1,700頭になっているので、ニホンジカが増えているのであれば、目標値も増えるだろうし、減っているのであれば目標値も減るだろうし、どのようなエビデンスに基づいているのか気になった。

(ニホンジカ対策室)

計画の目標値は1,700頭と設定しているが、すでに3,000頭弱の実績となっていることから、現状に合わせて駆除頭数を上げていかなければならない。

(事務局)

目標値について情勢の変化等を踏まえながら、見直していかなければならないと御指摘をいただいている。庄子会長からもお話いただいているが、委員評価シートに御記入いただき、必要な見直しは次の会議で検討していかなければならないと考えている。

【第4節】 質疑なし

【第5節】 質疑なし

【第6節】

(委員)

中小企業セミナー参加者数が15名となっているが、セミナーというと集団でやっているイメージがあるので、15名は少なすぎるのではないかと思う。どのような体制でやっているのか。15名になると個別のセミナーというイメージを受けるので、もう少し多くても良いのではないかというのが私の認識である。

それから合同企業説明会への参加人数について、昨年度はコロナ禍の影響でできなかったというのは重々認識しているが、体制づくり等、今後どのようにして目標を達成していくのか。リアルでできなければ、オンラインでやるとか、手法はあると思うので検討してほしい。

(産業推進課)

セミナーについては、先輩経営者の経験や経営思想を学ぶ少人数参加型の対話、討論形式、ワークショップ形式で、できるだけ少人数で内容の濃い人材育成セミナーを実施しており、それを指標に設定している。

(商工課)

合同企業説明会については、令和3年度は1回の開催となったが、例年7～8回開催しており、ハローワーク石巻、石巻サポートセンターと共催で行っている。御指摘にあったように、オンラインでの開催も考えられるので、関係機関と連携して実施していきたい。

(委員)

全体的なことで1つ確認したい。我々委員が評価するにあたって教えてほしい。冒頭でKGIの達成度とKPIの達成度が違う場合、我々はどのように評価したらいいのか質問があった。私の認識では、KGIを達成するためにKPIを設定し、KPIは目標を達成するための手段として捉えて良いと思うが、それらの評価に差が出た場合、大変評価がしづらい。普通、目標が達成できたかどうか決めるときに、具体的にどうだったか吟味し、それを勘案して目標の達成度を決めるのが一般的だと考える。冒頭の説明では、どちらの立場に立っても良いですよ、委員にお任せしますよ、という回答だったと思うが、それでは、市全体の計画を評価し、来年度につなげていく上で、非常に乱暴な評価になるのではないかと懸念している。KGIより具体的な事業のKPIの評価に重きを置きながら評価してはどうか。事務局はどう考えるか。

(会長)

私の見解をお話させてもらおうと、KGIとKPIでどちらが重要かという、KGIである。KGIは最終的なゴール目標になるので、KGIを達成するためにKPIを手段としている。個人の感想としてはKGIとKPIが一致していないところが多く、基本的には、KGIの達成度として評価していただきたい。KPIが達成できていないところに関しては、KPIが本当にそれで正しいのか。そもそもKGIが間違っているところもあると思う。その視点で評価していただきたいというのが私の会長としての意見である。事務局はいかがか。

(事務局)

御指摘のとおりである。KGIという数値目標を掲げて、KPIというのは、その目標を達成するために活動する指標として位置付けている。本来はKGIとKPIが関連するものとして一体的に見なければならぬが、会長から御指摘いただいたとおり、関連性や一体的になっている部分が見えにくいという御提言だと思う。これから推進会議は5年間続くので、5年後に向けて進めていくにあたって、途中で数値の設定の仕方も含めて、指標自体の見直しを図っていく必要があると考えている。

(委員)

前回会長からPDCAサイクルの解説があった。デミング博士によると、CheckではなくStudyであり、PDCAサイクルというのは元々機械の試作をし、チェックをして学んで、モノをつくるという考えから統計学者が提唱した。それを人文学的にも使おうということだが、本来チェックというのは、当事者がやらなくては

けない。我々は学識経験者ではないので、コメントするくらいで、偉そうにチェックはできない。KGIだろうとKPIだろうと概念として我々は理解できていない。システムとして完成しなくてはいけないので、本来であれば各担当課が、こういう目標を作るんだと、もっと真剣な立場で我々を説得するくらいの気持ちで取り組み、それに対して我々がどう思うか。我々は傍観者で、たまたま市民の代表者であって、議会経由で市民の目を通して作りました、というセレモニーであっては良くない。次回以降も議論していくけれども、コメントするくらいの軽い気持ちでないと、評価するのはとても悩む。まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議でも同じことをやったが、そのときも非常に悩んだ。皆さんの思いは、市役所の作業の中で単なる市民のお墨付きを得ました、というものではなくて、これからの将来を担うために、我々も一緒になってこれを作ったということを踏まえて事務局は考え直してほしい。

4 その他

(事務局)

委員評価シートについては、電子メール又は郵送にて7月21日(木)まで提出をお願いします。

また、次回会議は7月25日(月)午後3時から同会場で開催する。

5 閉会あいさつ

(副会長)

大変お疲れさまでした。言いたいことをたくさん我慢していると思う。苦勞して第2次石巻市総合計画を策定して、実績の評価をしたと思うが、皆さんから指摘があったように、整合が取れていないところがたくさんあると感じている。例えば、目標設定の基準が見えない、どこに向かっているのか見えない。それから節と細節のつながりがよく見えない。

しかし、今回は目標値についての評価なので、会長が何回もお話したように、第4回会議で皆さんからたくさん意見をお聞きしながら、本当に石巻市の施策に生かせるような会議にしていきたい。

6 閉会

石巻市総合計画推進会議委員名簿

No.	氏名	所属	備考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	井上 誼一	石巻市町内会連合会	出席
4	姥浦 道生	東北大学	欠席
5	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
6	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	川田 章	河南地域まちづくり委員会	出席
9	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
10	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
11	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	欠席
12	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
19	野呂 拓生	東北福祉大学	出席
20	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
21	堀内 康平	石巻金融団	出席
22	松井 英樹	いしのまき農業協同組合	出席
23	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
24	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席
25	横山 奈緒子	石巻市PTA協議会	出席

オブザーバー

1	石田 和也	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	小林 一裕	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鏑木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和4年6月1日現在（敬称略）